

## 北海道教育大学附属函館幼稚園

所在地 : 〒041-0806 北海道函館市美原3丁目48-6

電話番号 : 0138(46)2237

記載日 : 平成28年5月20日

記載者 : 齊藤 縁

記載者役職 : 副園長

### おおまかな特色 ・ 教育内容

#### 附属幼稚園の特徴

1. 附属函館幼稚園は、国立大学法人附属幼稚園としての役割を果たしています
2. 国の指針（文部科学省幼稚園教育要領）にそった教育(保育)を行っています
3. 少人数のきめ細やかで質の高い保育をしています
4. 地域のモデルとなるような先進的な教育に取り組んでいます

#### 附属函館幼稚園の教育と研究

##### こんな子に・・・いきいきと活動する子

●元気にあそぶ子 ●よく考える子 ●のびのび表現する子

●友達を思える子 ●すすんでやろうとする子

1. 健康で調和的な発達をはかる。
2. 喜んで集団生活に参加する態度を養う。
3. 協同、自主及び自律性を養う。
4. 社会や自然に興味や関心を持たせる。
5. 情操、創造性を豊かにする。



#### 本園の使命

学校教育法に基づいて幼児教育を行うとともに、教員養成を目的とする本学の附属学校として、幼児教育の理論と実践に関する研究並びに学生の教育実習を行う

#### 本園の教育目標

1. 心身ともにたくましく、はつらつと活動できる幼児の育成に努める。  
(健康な心身の基礎づくり)
2. 基本的な生活ができる習慣を身に付け、自分のことは自分でしようとする幼児の育成に努める。(生活的自立能力の基礎づくり)
3. 友達と積極的にかかわり、多くの人と協同し、集団生活を楽しむ幼児の育成に努める。(社会性、人間関係の基礎づくり)
4. 物事に興味、関心をもち、探究心をもって活動に取り組む幼児の育成に努める。  
(知的教育の基盤づくり)
5. 様々なことに心を動かし、豊かな心を持った幼児の育成に努める。  
(心・情操教育の基盤づくり)

小・中・特別支援学校との連携・交流



豊かな環境



**卒園生の活躍状況：**

①②③ 追跡調査は特にしていないので、把握できていない

**勤務経験者のあとの活躍状況：**

①地区で年に1回同人会を開催し、その際追跡状況を確認している

②附属函館中学校 ③大学同窓会の名簿にも記載されている



**魅力ある特色のある先導的な取り組み：**

本園では、全国の附属幼稚園でいち早く週2回の預かり保育を開始し、平成28年度からは子育て支援の一環として、毎日5時までの預かり保育と週2回の給食を導入している。平成29年度からは延長保育も導入予定。

預かり保育は教育課程内の保育と有機的に繋がり、大学や地域と連携しPTAや外部人材を活用した年間計画の中の下記の4つのプログラムに基づくものである。

①家庭的な雰囲気での自由遊び「わくわく」(H28 あそびっこ・のびのび・うきうき)

この中にはゼミ学生の定期的・継続的な遊び計画(上記括弧内)も含まれている

②お楽しみ「イベント」(よさこい・日舞・吹奏楽・歌・絵本読み聞かせ・バレエ等)

学生サークル・PTAのOB・外部ボランティア等の方々毎年1回訪問する

③レッツ「講座」(サッカー・茶道・英語・科学ショー・キッズピクス等)

大学の先生や学生・外部の講師の方々等が年間2回以上講座を担当する

④園児の預かり時間内の保護者の教育相談「子育てトーク」

月に1回程度、申し込み制でPTAOB有資格者の子育て相談が受けられる

附属園ならではの人材を活用した教育課程外の預かり保育は、附属園の中でも特色のある先導的な取り組みといえる。さらに保護者には子育て支援「スマイル講座」、「食育講座」などを行っている。

**地域における存在：**

少子化が加速する地域の中で、伝統のある公立幼稚園が廃園したり認定子ども園化したりする中で、唯一の国立幼稚園として、主に下記2点において先進的なモデルとなる幼児教育をめざし、研究実績を還元している。

①幼小連携・接続カリキュラムの作成

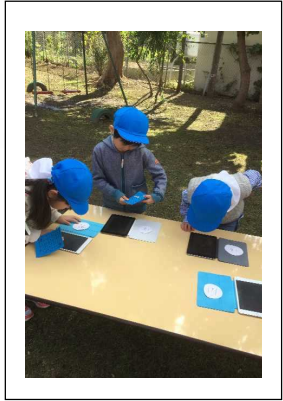
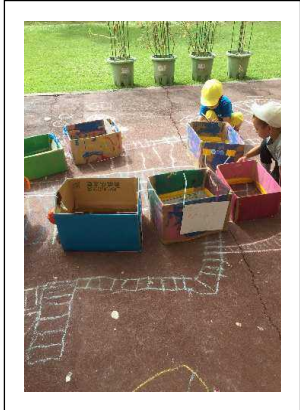
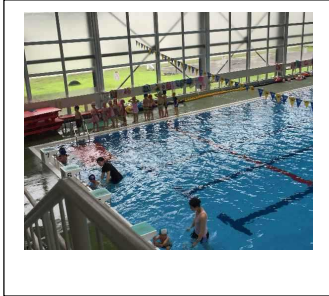
②21世紀型学力の学びの芽の育成 (ICT活用アクティブラーニング)

**附属園の存在意義：**

全国一広く多くの教員を養成している北海道教育大学の附属園として、12年の一貫教育に繋がる教育研究や教育実習・教員養成の場となる本園の存在意義は大きい。

# 豊かなフィールドから広がる遊び

## ● 園舎平面図



敷地総面積	55,784.00㎡
幼稚園敷地面積	5,723.00㎡
園舎面積	634.90㎡
グラウンド	2,031.00㎡